

下御霊神社神輿蔵 修繕工事の記録

2022.2 - 2023.3

工事に関わった方々
株式会社 前田英工務店
左官工事 | 木津工業所

木工事 | 株式会社 真・京匠福嶋工務店
瓦工事 | 株式会社 堤瓦商店

足場工事 | 有限会社 笹村建設
樋工事 | 有限会社 八田板金

アーカイブ作成
京都府立大学環境デザイン学科
森田研究室

修繕工事前

中世から近世までの京都の人々は、長らく災害や疫病に苦しめられてきました。人々の中で不安が広がるなか、神社は人々の心のよりどころでした。なかでも下御霊神社は、災害や疫病から人々を守る神社として、長いあいだ地域の人々から愛されてきました。しかし近年では社殿の老朽化が進み、本殿をはじめ修繕工事を行う必要性が高まっていました。

今回の修繕工事の対象は、境内南東に位置する神輿蔵です。修繕工事を行う前は外壁の塗装が剥がれて土壁が露出していたり、屋根は歪んでいたり、境内の中でも特に劣化が目立っていました。

神輿蔵は、宝永の大火（1708）で一度焼失しましたが、翌年に東山天皇と霊元上皇より大宮神輿を寄付された際にあわせて再建されます。その後、幾度も焼失を逃れ朝廷から下賜された貴重な神輿も含めて現在まで残されてきました。

今回の修繕工事は、前回の明治16年（1883）以降、140年ぶりに行われたものです。

作業の様子をまとめた動画はこちらからご覧いただけます。



YouTube



Vimeo



特に屋根や雨樋の損傷が目立つ



漆喰が剥がれて土壁が露出している

修繕後



修繕工事後の内部の様子



修繕工事後の様子

修繕工事の主な作業

1. 既存の壁を取り除く



既存の漆喰や土壁をはがす作業。傷んでいる部分を手作業で丁寧に削り落とす。

2. 土壁塗り



漆喰の下地である土壁を塗る。竹の下地を編んだ上に、何重にも塗り重ねている。

3. むら直し



既存の瓦を撤去したのちに、傷んでいた垂木の交換や下地の交換を行い、その上から新たな瓦を葺いた。

4. 漆喰塗り



土壁の上から砂灰と呼ばれる下地を塗ったのちに、鏝（こて）を使って漆喰を塗り広げて平滑に仕上げる。

5. なまこ壁



土壁に雨除けの平瓦（黒い部分）を固定したあと、ナマコと呼ばれる盛り上がった漆喰の目地を作っていく。

6. 戸前・装飾



屋根上の鶴の彫刻や、扉の装飾を再生し、漆喰を塗って仕上げる。